

工藤和美さん

[建築家]



子どもたちが一日の多くを過ごす学校。建築家の工藤和美さんは、通うのが楽しくなり、居心地がよい新しい学校を作ろうと、学校建築に携わってこられました。そこで、学校づくりを通して気づいたり、感じたりしたことや先生方に希望されることを伺ってみました。

転校のたびに感じた「不安」

小学校は、子どもが初めて体験する「大きな集団」。そこにはものすごい緊張感があります。広い体育館や教室は、まだ小さい子どもにとっては「怖さ」さえ感じさせるものです。私自身、1年生の初日、一緒に登校してくれた姉と昇降口で別れた瞬間、「ここからどこに行けばいいのだろう」と一気に不安になったのを覚えています。

父が転勤族だった私は、小学生で2回の転校を経験しました。新しい学校に移るたび、新入生の時と同じような緊張感を味わいながら、自分の居場所を探さなくてはなりません。この原体験が建物や環境に興味をもつきっかけになり、大学では建築学を専攻。大学院在学中に共同で設計事務所を設立し、以来、数多くの学校建設に携わってきました。

オープンスクールのよさとは

かつて学校と言えば、「片廊下一文字型校舎」の教室配置が定番でした。そのため、オープンスクールだと、保護者も先生も「集中して勉強できるのだろうか?」と不安に思うこともあります。しかし、実際は音響の問題もなく、子どもたちは集中して勉強しています。

オープンスクールという環境では、子どもと先生とが自由に人間関係を構築できます。例えば、もしあるクラスで何かトラブルがあったとき、区切られた教室の中だけで解決しようとする

時間がかかってしまうかもしれません。しかし、オープンスクールのように、クラス担任はいても、学年の教師全員で全クラスを見る学年担任制であれば、子どもも先生も、クラスの枠を越えています。その結果、自然にクラス外の人たちと協力することができ、トラブルもスムーズに解決できます。オープンスクールには、「関係が固定化されない空間」を作れるメリットがあるのです。

先生方も、他の先生の姿が常に視界に入ること、連携が取りやすくなったり、孤立感が減少したりと言います。何より、いろいろなことに早く気づくことができ、指導がしやすくなるはず。です。

立ち位置一つでも空気は変わる

このように、空間は学びに大きな影響を与えますが、教職課程には「学習空間の作り方」を学ぶ科目がありません。ですから、先生方は自分の体験をベースに日々の実践にあたっています。

例えば、教師の立ち位置。多くの先生は、教師は黒板の前に立つものだと思っているでしょう。しかし、立ち位置や机のレイアウトを変えるだけで、クラスの雰囲気は随分と変わります。自宅の模様替えを思い浮かべてください。ベッドの位置を変えたり、ソファの向きを変えたりするだけで、気分がガラリと変わるはず。最近では1クラスの人数が少なく、教室のスペースに余裕があります。それを利用して、いつ

もと違う位置に立ってみたら、何かが変わるかもしれません。

また、「子どもが図書館を利用しない」という話をよく聞きますが、私は子どもたちに本を読むきっかけを与えるため、学年ごとに図書コーナーを設けるようにします。そうすれば、10分休みの間でも本にふれることができます。ここで「図書館に行けば、もっと本があるよ」と誘導すれば、図書館を利用する子どもが増えるでしょう。

既存の建築で決して使い勝手がよくなくても、従来の使い方を少し変えてみるだけで効果が違ってきます。「学校とは、教室とはこうあるべきもの」という固定概念を打ち破り、工夫することで、環境は改善できるのです。

一人ひとりのよいところを伸ばそう

固定概念と言えば、日本では、教室に全員の書道や絵を掲示します。しかし欧米の場合、「同じもの」をそろえるよりも、それぞれの子が「一番得意なもの」を展示することを重視します。例えば、スポーツが得意なら、活躍している写真に「クラスのエース」などのコメントをつけて貼るといった具合です。

日本では、「全員分を貼らないと不公平だ」という考え方があります。しかしそれは、苦手な子にとっては耐えがたいことでもあります。それよりも、一人ひとりの「イチオシ」をピックアップして掲示してほしい。手間はかかりますが、個々のよいところを取り上げて、伸ばしていくことができればと思います。

PROFILE

くどう・かずみ ●1960年鹿児島市生まれ、福岡市などで育つ。横浜国立大学建築学科卒業後、東京大学大学院に進学し、1991年博士課程修了。1986年にシーラカンスを共同で設立。1998年シーラカンス K&H に改組。現在、東洋大学建築学科教授。1997年日本建築学会賞を受賞した千葉市立打瀬小学校をはじめ、福岡市立博多小学校、さつき幼稚園、山鹿市立山鹿小学校など、学校の企画・設計・監理を数多く手がけている。著書は『学校をつくらう!』(TOTO出版)など。

体験や既存の空間にしばられず、
子どもが心はずむ環境をつくらう